

ストレートワイヤーエッジワイズシステム

<矯正実習（基礎）2日間コース>

ストレートワイヤーエッジワイズシステムを用いるにあたり、不可欠な(重要な)2つの要素があります。第1に適切な治療計画、第2には正確なブラケットポジショニングです。このどちらが欠けても、良い治療結果は得られません。今回はこれらの2つの要素について、治療計画については実習を交えながら講演していきたいと思います。

先生方は、日常の臨床の中で其々のケースについて診断し、治療方針を決定されていると思います。エビデンスを知る事により、臨床における決断に自信が持て、スキルの偏りを防ぐことができます。

さまざまなサイズ、形態、また咬耗のある歯などについて、ワイヤーベンディングが最少で済み、効率良く治療が行えるブラケットポジションの決定方法をお話いたします。また、治療計画立案実習では資料をもとに先生方と一緒に考えていければと思います。

今回の講習が、ストレートワイヤーエッジワイズシステムを効率的に稼働させるための、知識と技術の習得のお役に立てれば幸いです。



講師：
中西 秀郎先生

なかにし ひでお

2002年 大阪歯科大学歯科矯正学講座入局
2006年 ペンシルベニア州テンブル大学大学院
(歯科矯正学)修了
2006年 マスター・オブ・サイエンス
(テンブル大学)取得
2006年 米国矯正歯科学会認定医(ABO)取得
2007年 米国歯科医師国家試験合格

第一日目

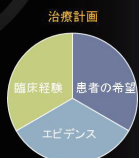
- 矯正治療におけるエビデンスとは？
- 装置とメカニクスの選択
- McLaughlin Systemの有用性
- ブラケットポジショニング(ダイレクト、インダイレクト)
臨床における注意点

第二日目

- ストレートエッジワイズシステムを用いた各種臨床例
- エビデンスから考える一期治療の時期と装置選択基準
- 治療計画立案実習
- より良好な咬合関係を構築するための
インターディスプリナリーアプローチ

エビデンスに基づいた医療 (Evidence-based Medicine: EBM)

EBMのスキルは臨床における決断に自信を与えるものであり、経験を通じたスキルの偏りを防ぐものである。ただし、患者の好み、優先順位、社会的、文化的要素を含まないEBMは存在しない。 Anderson 2002



目標とする静的咬合



目標とする動的咬合



RPE+Face mask therapyによって 改善したOverjetの割合

上顎骨の近心移動	31%
下顎骨の後方回転	21%
上顎前歯の唇側傾斜	28%
下顎前歯の舌側傾斜	20%



- ・ Wits analysisで換算すると4~6mmの改善
- ・ A-pointで2~4mmの前方移動
- ・ ANBで0.9~4.4° (平均2.8°)の改善

日時

2027年 3月21日(日・祝) 10:00~17:30
3月22日(月・振休) 9:30~17:00

場所

KITENA新大阪 503号室
〒533-0033
大阪府大阪市東淀川区東中島1丁目18番5号

受講料

松風歯科クラブ
デンティストサークル会員 : 93,500円
一般 : 99,000円
(実習材料費、昼食費、消費税含む)

お問い合わせ先

株式会社 松風 矯正課
松風矯正セミナー係 Tel.03-3832-1824

「SHOFU seminar サイト」からお申込み

松風セミナー

検索



<https://seminar.shofu.co.jp/>

申込×切 開催日の7日前まで